

高岡市民病院事業会計

高岡市民病院事業会計

1 業務状況

令和4年度の延患者数は 261,856 人で、前年度に比べ 12,965 人(△4.7%)減少している。
そのうち入院患者数は 90,308 人で、前年度に比べ 8,044 人(△8.2%)減少し、外来患者数は 171,548 人で、前年度に比べ 4,921 人(△2.8%)減少している。

また、病床利用率は 66.3%で、前年度に比べ 0.9 ポイント低下している。

(1) 業務実績

区 分		単位	令和4年度 A	令和3年度 B	令和2年度	前年度との比較	
						増減C(A-B)	率C/B(%)
病床数		床	373	401	401	△ 28	△ 7.0
一般病床		床	305	333	333	△ 28	△ 8.4
精神病床		床	50	50	50	0	—
結核病床		床	12	12	12	0	—
感染症病床		床	6	6	6	0	—
診療日数	入院	日	365	365	365	0	—
	外来	日	243	242	243	1	0.4
延患者数		人	261,856	274,821	265,161	△ 12,965	△ 4.7
年間入院患者数		人	90,308	98,352	94,307	△ 8,044	△ 8.2
1日平均入院患者数		人	247.4	269.5	258.4	△ 22.1	△ 8.2
年間外来患者数		人	171,548	176,469	170,854	△ 4,921	△ 2.8
1日平均外来患者数		人	706.0	729.2	703.1	△ 23.2	△ 3.2
病床利用率		%	66.3	67.2	64.4	△ 0.9	
一般病床		%	71.3	70.3	67.6	1.0	
精神病床		%	48.0	60.4	59.0	△ 12.4	
結核病床		%	49.8	43.6	28.6	6.2	
感染症病床		%	0.0	0.0	4.9	0.0	
職員数		人	485	484	482	1	0.2
平均在院日数		日	12.5	13.1	13.3	△ 0.6	△ 4.6

- (注) 1 病床利用率 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$
2 職員数(各年度末現在)には、会計年度任用職員は含まれていない。

(2) 科別入院患者数比較表

(単位:人・%)

科 名	入 院 患 者 数					1 日平均患者数			
	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度	前年度との比較		令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度	前年度との比較 D-E
	A	B		増減 C(A-B)	率C/B	D	E		
内科	29,452	27,789	27,515	1,663	6.0	80.7	76.1	75.4	4.6
神経内科	6,241	3,817	4,290	2,424	63.5	17.1	10.5	11.8	6.6
消化器内科	12,759	13,386	12,228	△ 627	△ 4.7	35.0	36.7	33.5	△ 1.7
精神神経科	8,764	11,037	10,781	△ 2,273	△ 20.6	24.0	30.2	29.5	△ 6.2
小児科	569	1,053	839	△ 484	△ 46.0	1.6	2.9	2.3	△ 1.3
外科	7,161	10,042	9,556	△ 2,881	△ 28.7	19.6	27.5	26.2	△ 7.9
胸部・血管外科	659	1,144	1,950	△ 485	△ 42.4	1.8	3.1	5.3	△ 1.3
整形外科	10,446	10,725	10,366	△ 279	△ 2.6	28.6	29.4	28.4	△ 0.8
脳神経外科	55	5,652	4,601	△ 5,597	△ 99.0	0.2	15.5	12.6	△ 15.3
皮膚科	262	415	278	△ 153	△ 36.9	0.7	1.1	0.8	△ 0.4
形成外科	511	640	683	△ 129	△ 20.2	1.4	1.8	1.9	△ 0.4
泌尿器科	4,128	4,695	3,607	△ 567	△ 12.1	11.3	12.9	9.9	△ 1.6
産婦人科	4,491	3,986	3,964	505	12.7	12.3	10.9	10.9	1.4
眼科	2,078	2,301	2,039	△ 223	△ 9.7	5.7	6.3	5.6	△ 0.6
耳鼻咽喉科	413	656	599	△ 243	△ 37.0	1.1	1.8	1.6	△ 0.7
放射線科	0	0	0	0	—	0.0	0.0	0.0	0.0
歯科口腔外科	643	719	473	△ 76	△ 10.6	1.8	2.0	1.3	△ 0.2
麻酔科	40	38	173	2	5.3	0.1	0.1	0.5	0.0
リウマチ科	160	257	365	△ 97	△ 37.7	0.4	0.7	1.0	△ 0.3
リハビリテーション科									
緩和ケア内科	1,476			1,476	皆増	4.0			4.0
計	90,308 (365)	98,352 (365)	94,307 (365)	△ 8,044	△ 8.2	247.4	269.5	258.4	△ 22.1

(注) () 内は、各年度の診療日数である。

年間入院患者数は延 90,308 人で、前年度に比べ 8,044 人(△8.2%)減少している。

1 日平均患者数は 247.4 人で、前年度に比べ 22.1 人減少している。前年度に比べ増加した科は神経内科、内科、産婦人科等で、減少した科は脳神経外科、外科、精神神経科等である。

(3) 科別外来患者数比較表

(単位：人・%)

科名	外 来 患 者 数					1 日平均患者数			
	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度	前年度との比較		令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度	前年度との比較 D-E
	A	B		増減 C(A-B)	率C/B	D	E		
内科	32,691	33,125	32,531	△ 434	△ 1.3	134.5	136.9	133.9	△ 2.4
神経内科	5,080	4,867	4,958	213	4.4	20.9	20.1	20.4	0.8
消化器内科	14,245	14,305	13,058	△ 60	△ 0.4	58.6	59.1	53.7	△ 0.5
精神神経科	14,860	14,897	14,335	△ 37	△ 0.2	61.2	61.6	59.0	△ 0.4
小児科	2,872	2,747	1,945	125	4.6	11.8	11.4	8.0	0.4
外科	9,479	9,459	9,335	20	0.2	39.0	39.1	38.4	△ 0.1
胸部・血管外科	1,525	2,273	2,583	△ 748	△ 32.9	6.3	9.4	10.6	△ 3.1
整形外科	10,891	11,722	11,844	△ 831	△ 7.1	44.8	48.4	48.7	△ 3.6
脳神経外科	3,432	4,743	5,509	△ 1,311	△ 27.6	14.1	19.6	22.7	△ 5.5
皮膚科	6,387	6,213	5,379	174	2.8	26.3	25.7	22.1	0.6
形成外科	3,521	3,446	3,619	75	2.2	14.5	14.2	14.9	0.3
泌尿器科	10,180	9,801	9,706	379	3.9	41.9	40.5	39.9	1.4
産婦人科	8,589	8,465	8,050	124	1.5	35.3	35.0	33.1	0.3
眼科	9,652	9,722	8,815	△ 70	△ 0.7	39.7	40.2	36.3	△ 0.5
耳鼻咽喉科	2,492	2,690	3,101	△ 198	△ 7.4	10.3	11.1	12.8	△ 0.8
放射線科	3,672	3,810	4,446	△ 138	△ 3.6	15.1	15.7	18.3	△ 0.6
歯科口腔外科	5,512	5,878	5,795	△ 366	△ 6.2	22.7	24.3	23.8	△ 1.6
麻酔科	2,305	2,336	2,285	△ 31	△ 1.3	9.5	9.7	9.4	△ 0.2
リウマチ科	2,033	2,175	2,137	△ 142	△ 6.5	8.4	9.0	8.8	△ 0.6
リハビリテーション科	21,993	23,795	21,423	△ 1,802	△ 7.6	90.5	98.3	88.2	△ 7.8
緩和ケア内科	137			137	皆増	0.6			0.6
計	171,548 (243)	176,469 (242)	170,854 (243)	△ 4,921	△ 2.8	706.0	729.2	703.1	△ 23.2

(注) () 内は、各年度の診療日数である。

年間外来患者数は延 171,548 人で、前年度に比べ 4,921 人(△2.8%)減少している。

1 日平均患者数は 706.0 人で、前年度に比べ 23.2 人減少している。前年度に比べ増加した科は泌尿器科、神経内科、皮膚科等で、減少した科はリハビリテーション科、脳神経外科、整形外科、胸部・血管外科等である。

(4) 科別入院診療収入比較表

(単位：診療収入：千円・%、患者1人1日当たり診療収入：円)

科名	令和4年度 A	令和3年度 B	令和2年度	前年度との比較		患者1人1日当たり診療収入			
				増減 C(A-B)	率C/B	令和4年度 D	令和3年度 E	令和2年度	前年度との 比較 D-E
内科	1,673,024	1,595,230	1,435,901	77,794	4.9	56,805	57,405	52,186	△ 600
神経内科	298,821	171,799	176,144	127,022	73.9	47,880	45,009	41,059	2,871
消化器内科	731,425	742,005	617,066	△ 10,580	△ 1.4	57,326	55,431	50,463	1,895
精神神経科	165,947	198,499	199,802	△ 32,552	△ 16.4	18,935	17,985	18,533	950
小児科	31,023	49,305	39,161	△ 18,282	△ 37.1	54,522	46,823	46,676	7,699
外科	561,705	699,754	627,550	△ 138,049	△ 19.7	78,439	69,683	65,671	8,756
胸部・血管外科	46,868	81,992	133,621	△ 35,124	△ 42.8	71,120	71,671	68,524	△ 551
整形外科	703,305	683,065	631,179	20,240	3.0	67,328	63,689	60,889	3,639
脳神経外科	9,385	291,770	250,716	△ 282,385	△ 96.8	170,635	51,622	54,492	119,013
皮膚科	9,614	13,595	10,377	△ 3,981	△ 29.3	36,696	32,759	37,328	3,937
形成外科	24,256	26,879	32,474	△ 2,623	△ 9.8	47,468	41,999	47,545	5,469
泌尿器科	263,989	279,350	238,465	△ 15,361	△ 5.5	63,951	59,499	66,112	4,452
産婦人科	357,018	327,015	326,616	30,003	9.2	79,496	82,041	82,396	△ 2,545
眼科	231,075	225,837	180,326	5,238	2.3	111,200	98,147	88,438	13,053
耳鼻咽喉科	27,797	37,050	31,140	△ 9,253	△ 25.0	67,304	56,479	51,987	10,825
放射線科	0	0	0	0	—	0	0	0	0
歯科口腔外科	40,641	46,052	31,028	△ 5,411	△ 11.7	63,206	64,050	65,598	△ 844
麻酔科	10,339	8,261	16,866	2,078	25.2	258,472	217,403	97,493	41,069
リウマチ科	7,088	9,793	16,444	△ 2,705	△ 27.6	44,300	38,106	45,052	6,194
リハビリテーション科	0	0	0	0	—	0	0	0	0
緩和ケア内科	73,903			73,903	皆増	50,070			50,070
計	5,267,223	5,487,251	4,994,876	△ 220,028	△ 4.0	58,325	55,792	52,964	2,533

年間入院診療収入は5,267,223千円で、前年度に比べ220,028千円(△4.0%)減少している。

このうち脳神経外科は9,385千円で、前年度に比べ282,385千円(△96.8%)減少している。

患者1人1日当たりの診療収入は58,325円で、前年度に比べ2,533円増加している。前年度に比べ増加した科は脳神経外科、麻酔科、眼科等で、減少した科は産婦人科、歯科口腔外科、内科等である。

(5) 科別外来診療収入比較表

(単位：診療収入：千円・％、患者１人１日当たり診療収入：円)

科名	令和４年度 A	令和３年度 B	令和２年度	前年度との比較		患者１人１日当たり診療収入			
				増減 C(A-B)	率C/B	令和４年度 D	令和３年度 E	令和２年度	前年度との 比較 D-E
内科	538,387	525,641	513,665	12,746	2.4	16,469	15,868	15,790	601
神経内科	28,625	27,331	28,052	1,294	4.7	5,635	5,616	5,658	19
消化器内科	247,883	212,595	171,486	35,288	16.6	17,401	14,862	13,133	2,539
精神神経科	67,938	70,222	65,838	△ 2,284	△ 3.3	4,572	4,714	4,593	△ 142
小児科	31,086	22,774	15,043	8,312	36.5	10,824	8,290	7,734	2,534
外科	318,487	308,818	306,689	9,669	3.1	33,599	32,648	32,854	951
胸部・血管外科	20,281	35,125	43,201	△ 14,844	△ 42.3	13,299	15,453	16,725	△ 2,154
整形外科	89,811	96,785	100,801	△ 6,974	△ 7.2	8,246	8,257	8,511	△ 11
脳神経外科	31,322	38,496	41,713	△ 7,174	△ 18.6	9,127	8,116	7,572	1,011
皮膚科	16,815	14,859	10,869	1,956	13.2	2,633	2,392	2,021	241
形成外科	12,388	12,086	12,998	302	2.5	3,518	3,507	3,591	11
泌尿器科	182,433	158,122	182,887	24,311	15.4	17,921	16,133	18,843	1,788
産婦人科	73,967	76,234	78,489	△ 2,267	△ 3.0	8,612	9,006	9,750	△ 394
眼科	141,281	145,943	140,303	△ 4,662	△ 3.2	14,638	15,012	15,916	△ 374
耳鼻咽喉科	21,457	21,523	25,050	△ 66	△ 0.3	8,610	8,001	8,078	609
放射線科	78,407	84,750	108,486	△ 6,343	△ 7.5	21,353	22,244	24,401	△ 891
歯科口腔外科	39,681	40,247	41,229	△ 566	△ 1.4	7,199	6,847	7,115	352
麻酔科	10,417	15,786	13,646	△ 5,369	△ 34.0	4,519	6,758	5,972	△ 2,239
リウマチ科	37,153	39,964	45,096	△ 2,811	△ 7.0	18,275	18,374	21,102	△ 99
リハビリテーション科	65,808	73,798	62,416	△ 7,990	△ 10.8	2,992	3,101	2,913	△ 109
緩和ケア内科	552			552	皆増	4,027			4,027
計	2,054,179	2,021,099	2,007,957	33,080	1.6	11,974	11,453	11,752	521

年間外来診療収入は2,054,179千円で、前年度に比べ33,080千円(1.6%)増加している。

患者１人１日当たりの診療収入は11,974円で、前年度に比べ521円増加している。前年度に比べ増加した科は消化器内科、小児科、泌尿器科等で、減少した科は麻酔科、胸部・血管外科、放射線科等である。

(6) 手術及び検査状況

(単位：件・%)

区 分	令和4年度 A	令和3年度 B	令和2年度	前年度との比較	
				増減C(A-B)	率C/B
手術件数	3,886	3,778	3,628	108	2.9
検査件数	1,807,923	1,896,828	1,808,237	△ 88,905	△ 4.7
X線件数	51,133	57,971	57,618	△ 6,838	△ 11.8

(注) X線件数のうちエコー件数は除く。

(7) 処方箋の状況

(単位：枚・%)

区 分	令和4年度 A	令和3年度 B	令和2年度	前年度との比較	
				増減C(A-B)	率C/B
処方箋枚数	79,687	80,841	80,065	△ 1,154	△ 1.4
うち院外処方箋枚数	73,669	76,255	76,207	△ 2,586	△ 3.4
院外処方箋率	92.4	94.3	95.2	△ 1.9	△ 2.0

(8) 調剤の状況

(単位：件・%)

区 分	令和4年度 A	令和3年度 B	令和2年度	前年度との比較	
				増減C(A-B)	率C/B
入院患者調剤件数	81,070	89,895	83,392	△ 8,825	△ 9.8
外来患者調剤件数	14,040	12,811	11,290	1,229	9.6
計	95,110	102,706	94,682	△ 7,596	△ 7.4

(9) 給食の状況

(単位：食・%)

区 分	令和4年度 A	令和3年度 B	令和2年度	前年度との比較	
				増減C(A-B)	率C/B
一般食数	112,030	147,193	140,072	△ 35,163	△ 23.9
特別食数	77,940	89,285	86,444	△ 11,345	△ 12.7
計	189,970	236,478	226,516	△ 46,508	△ 19.7

(注) 特別食はエネルギーコントロール食、たんぱくコントロール食などである。

(10) 部門別100床当たり職員数

(単位：人・%)

区 分	令和4年度		令和3年度		令和2年度		前年度との比較		全国平均 (令和3年度)
	職員数	100床当たり 職員数 A	職員数	100床当たり 職員数 B	職員数	100床当たり 職員数	増減 C(A-B)	率 C/B	
医師	65	17.4	70	17.5	68	17.0	△ 0.1	△ 0.6	22.5
看護部門	329	88.2	333	83.0	328	81.8	5.2	6.3	91.0
薬剤部門	16	4.3	16	4.0	17	4.2	0.3	7.5	4.8
事務部門	25	6.7	25	6.2	25	6.2	0.5	8.1	18.8
給食部門	6	1.6	6	1.5	6	1.5	0.1	6.7	2.7
放射線部門	17	4.6	16	4.0	16	4.0	0.6	15.0	4.5
検査部門	21	5.6	20	5.0	20	5.0	0.6	12.0	6.0
その他職員	21	5.6	20	5.0	20	5.0	0.6	12.0	14.4
計	500	134.0	506	126.2	500	124.7	7.8	6.2	164.7

(注) 1 部門別100床当たり職員数 = $\frac{\text{部門別職員数}}{\text{病床数}} \times 100$

2 医師職員数には、フルタイム会計年度任用職員を含む。

3 事務部門の職員数は、診療情報管理士を含む。

100床当たりの職員数は134.0人で、前年度に比べ7.8人(6.2%)増加している。

(11) 職員（医師・看護部門）１人１日当たり患者数・診療収入比較表

(単位:人・円・%)

区 分			令和４年度 A	令和３年度 B	令和２年度	前年度との比較		全国平均 (令和３年度)
						増減C(A-B)	率C/B	
患者数	医 師	入 院	3.5	3.6	3.6	△ 0.1	△ 2.8	3.6
		外 来	6.6	6.5	6.4	0.1	1.5	6.3
		計	10.1	10.1	10.0	0.0	—	9.9
	看護部門	入 院	0.6	0.6	0.6	0.0	—	0.8
		外 来	1.1	1.2	1.1	△ 0.1	△ 8.3	1.3
		計	1.7	1.8	1.7	△ 0.1	△ 5.6	2.1
診療収入		医 師	283,051	277,820	264,029	5,231	1.9	285,108
		看護部門	47,680	49,310	45,922	△ 1,630	△ 3.3	60,238

(注) 1 職員１人１日当たり患者数 = $\frac{\text{年間延入院（又は外来）患者数}}{\text{年間延医師（又は看護部門）数}}$

2 「年間延医師（又は看護部門）数」は、年度中において在籍した医師（フルタイム会計年度任用職員及びパートタイム会計年度任用職員を含む。）の延数〔又は看護部門（フルタイム会計年度任用職員及びパートタイム会計年度任用職員を含む。）の延数〕である。

3 職員１人１日当たり診療収入 = $\frac{\text{入院・外来診療収入}}{\text{年間延医師（又は看護部門）数}}$

職員１人１日当たりの患者数は、医師部門の入院及び外来の合計人数が10.1人で、前年度と同数であり、看護部門の入院及び外来の合計人数は1.7人で、前年度に比べ0.1人（△5.6%）減少している。

職員１人１日当たりの診療収入は、医師部門が283,051円で、前年度に比べ5,231円（1.9%）増加し、看護部門は47,680円で、前年度に比べ1,630円（△3.3%）減少している。

(12) 検査の状況

区 分		単位	令和４年度 A	令和３年度 B	令和２年度	前年度との比較		全国平均 (令和３年度)
						増減C(A-B)	率C/B(%)	
患者100人当たり検査件数		件	690.4	690.2	681.9	0.2	0.0	549.5
検査技師１人当たり検査件数		件	86,092	94,841	90,412	△ 8,749	△ 9.2	62,953
検査技師１人当たり検査収入		千円	27,523	30,273	26,154	△ 2,750	△ 9.1	30,111

(注) 1 患者100人当たり検査件数 = $\frac{\text{年間検査件数}}{\text{年間延入院・外来患者数}} \times 100$

2 検査技師１人当たり検査収入 = $\frac{\text{入院・外来検査収入}}{\text{検査技師数}}$

患者100人当たりの検査件数は690.4件で、前年度に比べ0.2件（0.0%）増加している。

検査技師１人当たりの検査件数は86,092件で、前年度に比べ8,749件（△9.2%）、検査収入は27,523千円で、前年度に比べ2,750千円（△9.1%）減少している。

(13) 材料費

区 分		単位	令和４年度	令和３年度	令和２年度	前年度との比較		全国平均 (令和３年度)	
			A	B		増減 C(A-B)	率 C/B(%)		
薬品費	薬品費		千円	998,288	901,431	919,205	96,857	10.7	
	経常費用に占める割合		%	10.8	10.2	10.3	0.6		10.4
	医業収益に対する割合		%	13.1	11.6	12.7	1.5		12.8
	患者１人１日当たり薬品費		円	3,812	3,280	3,467	532	16.2	3,976
	薬品使用効率	投薬	%	77.9	76.9	74.5	1.0		95.1
		注射	%	80.1	76.9	78.9	3.2		95.9
		計	%	79.9	76.9	78.4	3.0		95.7
診療材料費	診療材料費		千円	688,235	692,665	645,627	△ 4,430	△ 0.6	
	経常費用に占める割合		%	7.4	7.8	7.2	△ 0.4		10.4
	医業収益に対する割合		%	9.0	8.9	8.9	0.1		12.8
給食材料費	給食材料費		千円	65,460	68,411	65,263	△ 2,951	△ 4.3	
	経常費用に占める割合		%	0.7	0.8	0.7	△ 0.1		0.3
	医業収益に対する割合		%	0.9	0.9	0.9	0.0		0.4
	患者１人１日当たり給食材料費		円	725	696	692	29	4.2	308
	患者１人１日当たり給食収入		円	1,562	1,633	1,651	△ 71	△ 4.3	1,446
	計		千円	1,751,983	1,662,507	1,630,095	89,476	5.4	

(注) 1 薬品使用効率 = $\frac{\text{薬品収入}}{\text{薬品費}} \times 100$

2 診療材料費には、医療消耗備品を含む。

ア 薬品費

薬品費は998,288千円で、前年度に比べ96,857千円(10.7%)増加している。

患者1人1日当たりの薬品費は3,812円で、前年度に比べ532円(16.2%)増加している。

また、経常費用に占める割合は10.8%で、前年度に比べ0.6ポイント上昇している。医業収益に対する割合は13.1%で、前年度に比べ1.5ポイント上昇している。

イ 診療材料費

診療材料費は688,235千円で、前年度に比べ4,430千円(△0.6%)減少している。

また、経常費用に占める割合は7.4%で、前年度に比べ0.4ポイント低下し、医業収益に対する割合は9.0%で、前年度に比べ0.1ポイント上昇している。

ウ 給食材料費

給食材料費は65,460千円で、前年度に比べ2,951千円(△4.3%)減少している。

入院患者1人1日当たりの給食材料費は725円で、前年度に比べ29円(4.2%)増加し、給食収入は1,562円で、前年度に比べ71円(△4.3%)減少している。

また、経常費用に占める割合は0.7%で、前年度に比べ0.1ポイント低下し、医業収益に対する割合は0.9%で、前年度と同率である。

2 予算の執行状況

(1) 収益的収入及び支出（消費税込み）

各科目の予算の執行状況は、下表のとおりである。

(単位:千円・%)

区 分		予算額 A	決算額 B	翌年度 繰越額 C	予算額に対する 増減 B+C-A 又は不用額 A-B-C	執行率 B/A	備 考
収 入	1 医業収益	8,156,469	7,619,953		△ 536,516	93.4	仮受消費税 14,639
	2 医業外収益	1,415,665	1,986,883		571,218	140.3	仮受消費税 3,698
	3 特別利益	1	0		△ 1	0.0	
	計	9,572,135	9,606,836		34,701	100.4	仮受消費税 18,337
支 出	1 医業費用	9,180,356	9,014,600	0	165,756	98.2	仮払消費税 226,172
	2 医業外費用	285,612	282,859	0	2,753	99.0	
	3 特別損失	141	0	0	141	0.0	
	4 予備費	0	0	0	0	—	
	計	9,466,109	9,297,459	0	168,650	98.2	仮払消費税 226,172
収支差引額		106,026	309,377				

ア 収益的収入

予算額 9,572,135 千円に対し、決算額は 9,606,836 千円(仮受消費税 18,337 千円を含む。)で、執行率 100.4%、34,701 千円の収入増である。

これは主に、医業収益が減少したものの、医業外収益が増加したことによるものである。

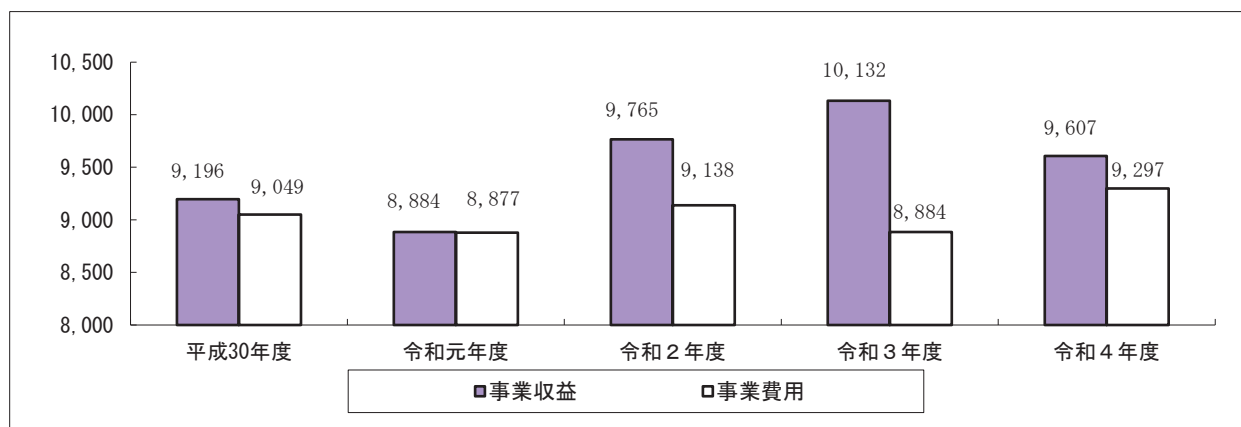
イ 収益的支出

予算額 9,466,109 千円に対し、決算額は 9,297,459 千円(仮払消費税 226,172 千円を含む。)で、執行率 98.2%、168,650 千円の不用額が生じている。

これは主に、医業費用に不用額が生じたことによるものである。

収益的収入及び支出決算額の推移

(単位：百万円)



(2) 資本的収入及び支出(消費税込み)

各科目の予算の執行状況は、下表のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分		予算額 A	決算額 B	翌年度 繰越額 C	予算額に対する 増減 B+C-A 又は不用額 A-B-C	執行率 B/A	備 考
収 入	1 企業債	564,900	273,500		△ 291,400	48.4	翌年度繰越額に係る 財源充当額 49,978
	2 出資金	148,929	145,329		△ 3,600	97.6	
	3 固定資産売却収入	1,050	411		△ 639	39.1	
	4 補助金	0	0		0	—	
	計	714,879	419,240		△ 295,639	58.6	
支 出	1 建設改良費	703,201	334,142	333,126	35,933	47.5	仮払消費税 30,377
	2 企業債償還金	1,036,632	1,036,631	0	1	100.0	
	3 投資及び出資金	1,050	444	0	606	42.3	
	計	1,740,883	1,371,217	333,126	36,540	78.8	仮払消費税 30,377
収支差引額		△ 1,026,004	△ 951,977				

ア 資本的収入

予算額714,879千円に対し、決算額は419,240千円で、執行率58.6%、295,639千円の収入減である。

これは主に、企業債が減少したことによるものである。

イ 資本的支出

予算額1,740,883千円に対し、決算額は1,371,217千円（仮払消費税30,377千円を含む。）で、執行率78.8%、翌年度繰越額333,126千円を差し引くと36,540千円の不用額が生じている。

これは主に、建設改良費に不用額が生じたことによるものである。

ウ 補てん財源

資本的収入額（翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額49,978千円を除く）が資本的支出額に不足する額1,001,955千円は、過年度分及び当年度分損益勘定留保資金1,001,268千円並びに当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額687千円で補てんされている。

(3) その他の事項

ア 企業債

起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、予算の定めに従って行われていた。

イ 一時借入金

一時借入金の限度額は1,000,000千円であるが、借入れはなかった。

ウ 議会の議決を経なければ流用することのできない経費

この経費は職員給与費及び交際費であり、他の経費との間における流用はなかった。

エ 他会計からの補助金

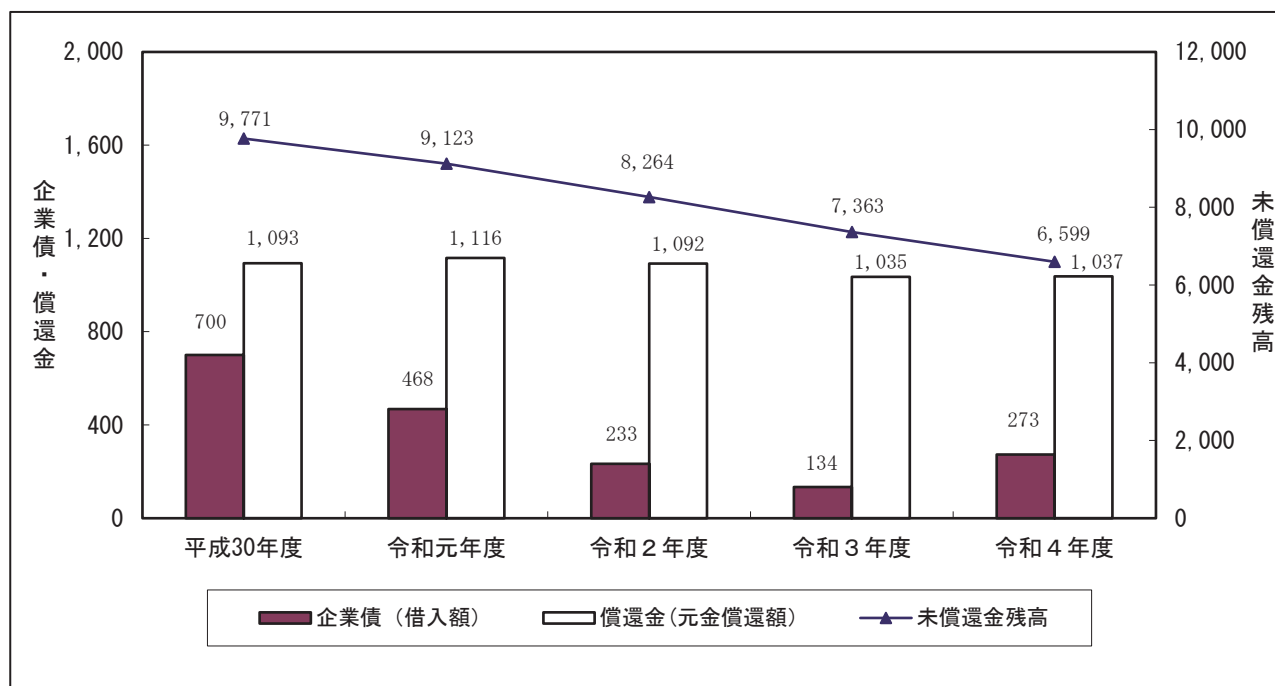
一般会計からの補助金は、予算の範囲内であった。

オ たな卸資産の購入状況

予算に定められたたな卸資産の購入限度額は1,182,808千円で、購入額はその範囲内であった。

企業債（借入額）、償還金（元金償還額）及び未償還金残高の推移

（単位：百万円）



3 経営状況

経営状況は、下表のとおりである。

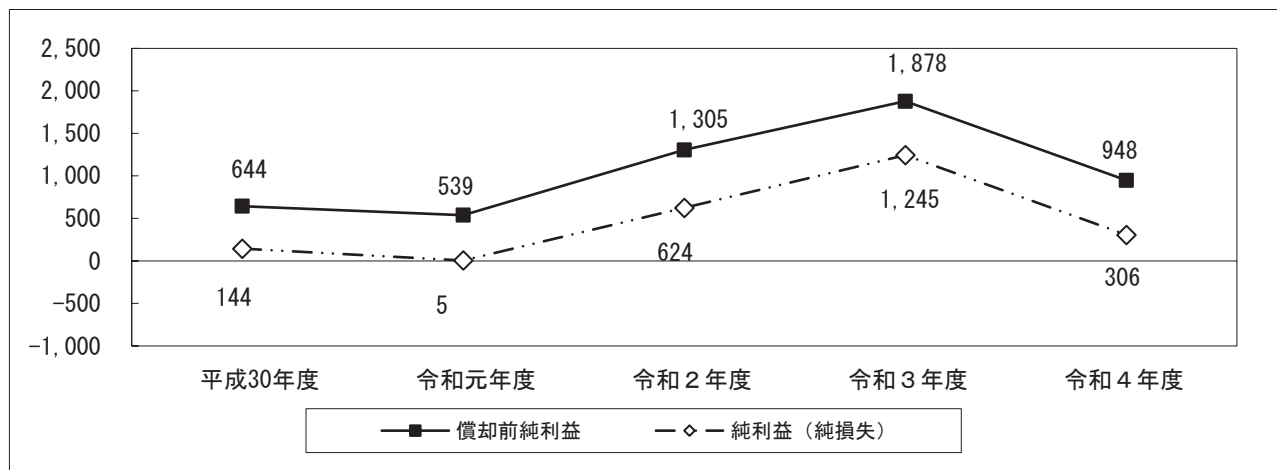
損益比較表

(単位:千円・%)

区 分		令和4年度		令和3年度	令和2年度	前年度との比較	
		金額 A	構成比	B		増減C(A-B)	率C/B
収 益	1 医業収益 (ア)	7,605,314	79.3	7,792,698	7,260,998	△ 187,384	△ 2.4
	2 医業外収益 (イ)	1,983,184	20.7	2,317,089	2,305,039	△ 333,905	△ 14.4
	3 特別利益 (ウ)	0	0.0	5,039	183,022	△ 5,039	皆減
	計	9,588,498	100.0	10,114,826	9,749,059	△ 526,328	△ 5.2
費 用	1 医業費用 (エ)	8,788,427	94.7	8,409,832	8,437,225	378,595	4.5
	2 医業外費用 (オ)	494,011	5.3	454,912	504,832	39,099	8.6
	3 特別損失 (カ)	0	0.0	5,037	183,013	△ 5,037	皆減
	計	9,282,438	100.0	8,869,781	9,125,070	412,657	4.7
医業収支 (ア)－(エ) a		△ 1,183,113		△ 617,134	△ 1,176,227	△ 565,979	△ 91.7
医業外収支 (イ)－(オ) b		1,489,173		1,862,177	1,800,207	△ 373,004	△ 20.0
経常収支 (a+b) c		306,060		1,245,043	623,980	△ 938,983	△ 75.4
特別収支 (ウ)－(カ) d		0		2	9	△ 2	皆減
当年度純利益(△損失) c + d		306,060		1,245,045	623,989	△ 938,985	△ 75.4

償却前純利益と純利益(純損失)の推移

(単位:百万円)



収益 9,588,498 千円に対し、費用は 9,282,438 千円で、306,060 千円の当年度純利益が生じている。

前年度に比べ 938,985 千円 (△75.4%) の減益である。

(1) 収益の部

収益の内訳は、下表のとおりである。

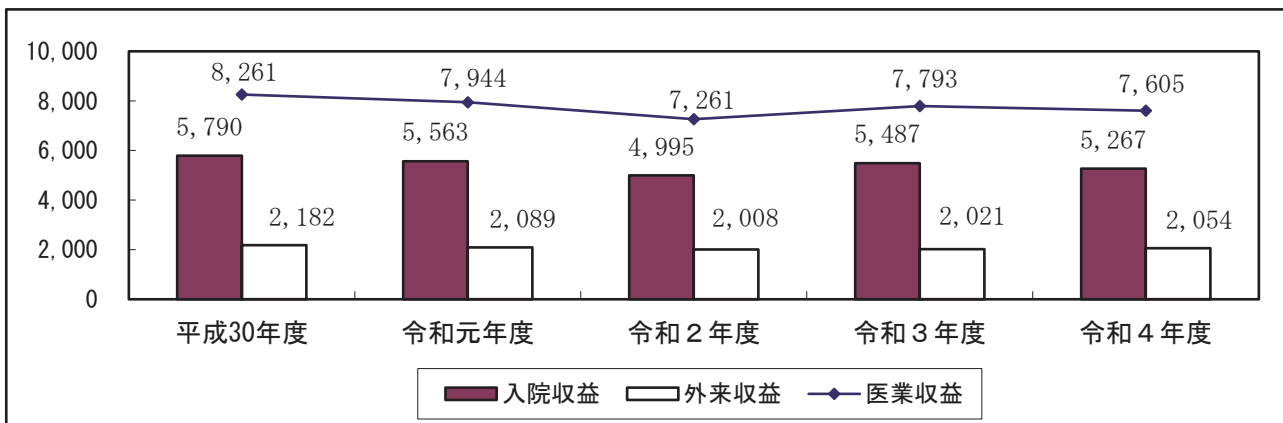
収益内訳表

(単位:千円・%)

区 分		令和 4 年度		令和 3 年度 B	令和 2 年度	前年度との比較	
		金額 A	構成比			増減C (A-B)	率C/B
収	1 医業収益	7,605,314	79.3	7,792,698	7,260,998	△ 187,384	△ 2.4
	(1)入院収益	5,267,223	54.9	5,487,251	4,994,876	△ 220,028	△ 4.0
	(2)外来収益	2,054,179	21.4	2,021,099	2,007,957	33,080	1.6
	(3)その他医業収益	283,912	3.0	284,348	258,165	△ 436	△ 0.2
益	2 医業外収益	1,983,184	20.7	2,317,089	2,305,039	△ 333,905	△ 14.4
	(1)受取利息及び配当金	0	0.0	0	0	0	—
	(2)他会計補助金	1,885,816	19.7	2,018,177	2,219,019	△ 132,361	△ 6.6
	(3)長期前受金戻入	56,679	0.6	46,071	14,739	10,608	23.0
	(4)その他医業外収益	40,689	0.4	252,841	71,281	△ 212,152	△ 83.9
	3 特別利益	0	0.0	5,039	183,022	△ 5,039	皆減
	(1)その他特別利益	0	0.0	5,039	183,022	△ 5,039	皆減
	計	9,588,498	100.0	10,114,826	9,749,059	△ 526,328	△ 5.2

医業収益の推移

(単位:百万円)



ア 医業収益

医業収益は7,605,314千円で、前年度に比べ187,384千円(△2.4%)減少している。
これは主に、入院収益が減少したことによるものである。

イ 医業外収益

医業外収益は1,983,184千円で、前年度に比べ333,905千円(△14.4%)減少している。
これは主に、他会計補助金及びその他医業外収益が減少したことによるものである。

ウ 特別利益

特別利益は0円で、前年度に比べ皆減している。

(2) 費用の部

費用の内訳は、下表のとおりである。

費用内訳表

(単位:千円・%)

区 分		令和 4 年度		令和 3 年度 B	令和 2 年度	前年度との比較	
		金額 A	構成比			増減C(A-B)	率C/B
費用	1 医業費用	8,788,427	94.7	8,409,832	8,437,225	378,595	4.5
	(1) 給与費	4,836,945	52.1	4,673,372	4,619,673	163,573	3.5
	(2) 材料費	1,751,983	18.9	1,662,507	1,630,095	89,476	5.4
	薬品費	998,288	10.8	901,431	919,205	96,857	10.7
	診療材料費	684,712	7.4	687,443	640,873	△ 2,731	△ 0.4
	給食材料費	65,460	0.7	68,411	65,263	△ 2,951	△ 4.3
	医療消耗備品	3,523	0.0	5,222	4,754	△ 1,699	△ 32.5
	(3) 経費	1,535,069	16.5	1,426,500	1,399,730	108,569	7.6
	(4) 減価償却費	641,739	6.9	632,960	680,667	8,779	1.4
	(5) その他	22,691	0.3	14,493	107,060	8,198	56.6
	2 医業外費用	494,011	5.3	454,912	504,832	39,099	8.6
	(1) 支払利息	122,047	1.3	139,989	158,046	△ 17,942	△ 12.8
	(2) 長期前払消費税償却	0	0.0	0	26,728	0	—
	(3) その他医業外費用	371,964	4.0	314,923	320,058	57,041	18.1
	3 特別損失	0	0.0	5,037	183,013	△ 5,037	皆減
	(1) その他特別損失	0	0.0	5,037	183,013	△ 5,037	皆減
計		9,282,438	100.0	8,869,781	9,125,070	412,657	4.7

ア 医業費用

医業費用は8,788,427千円で、前年度に比べ378,595千円(4.5%)増加している。

これは主に、給与費及び経費が増加したことによるものである。

イ 医業外費用

医業外費用は494,011千円で、前年度に比べ39,099千円(8.6%)増加している。

これは主に、支払利息が減少したものの、その他医業外費用が増加したことによるものである。

ウ 特別損失

特別損失は0円で、前年度に比べ皆減している。

4 財政状況

資産、負債及び資本の内訳は、下表のとおりである。

主要勘定貸借比較表

(単位：千円・%)

区 分			令和4年度		令和3年度 B	令和2年度	前年度との比較	
			金額 A	構成比			増減C(A-B)	率C/B
借 方	資 産	1 固定資産	7,953,990	70.8	8,299,895	8,710,609	△ 345,905	△ 4.2
		2 流動資産	3,274,464	29.2	3,312,851	2,743,949	△ 38,387	△ 1.2
	資産合計		11,228,454	100.0	11,612,746	11,454,558	△ 384,292	△ 3.3
貸 方	負 債	1 固定負債	5,493,028	48.9	6,325,949	7,228,880	△ 832,921	△ 13.2
		2 流動負債	2,190,819	19.5	2,133,666	2,400,299	57,153	2.7
		3 繰延収益	561,819	5.0	536,170	542,224	25,649	4.8
		負債合計	8,245,666	73.4	8,995,785	10,171,403	△ 750,119	△ 8.3
	資 本	4 資本金	11,967,177	106.6	11,907,411	11,818,650	59,766	0.5
		5 剰余金	△ 8,984,389	△ 80.0	△ 9,290,450	△ 10,535,495	306,061	3.3
		資本合計	2,982,788	26.6	2,616,961	1,283,155	365,827	14.0
	負債・資本合計		11,228,454	100.0	11,612,746	11,454,558	△ 384,292	△ 3.3

(1) 資産の部

資産の内訳は、下表のとおりである。

資産内訳表

(単位：千円・%)

区 分			令和4年度		令和3年度 B	令和2年度	前年度との比較	
			金額 A	構成比			増減C(A-B)	率C/B
借 方	資 産	1 固定資産	7,953,990	70.8	8,299,895	8,710,609	△ 345,905	△ 4.2
		(1)有形固定資産	7,949,676	70.8	8,295,614	8,706,226	△ 345,938	△ 4.2
		土地	1,114,298	9.9	1,114,298	1,114,298	0	—
		建物	5,687,698	50.7	5,907,542	6,094,101	△ 219,844	△ 3.7
		構築物	24,218	0.2	24,218	24,218	0	—
		器械及び備品	1,122,455	10.0	1,241,999	1,472,012	△ 119,544	△ 9.6
		車両	557	0.0	557	557	0	—
		建設仮勘定	450	0.0	7,000	1,040	△ 6,550	△ 93.6
		(2)投資	4,314	0.0	4,281	4,383	33	0.8
		長期前払消費税	0	0.0	0	0	0	—
		その他投資	4,314	0.0	4,281	4,383	33	0.8
		2 流動資産	3,274,464	29.2	3,312,851	2,743,949	△ 38,387	△ 1.2
		(1)現金及び預金	1,814,181	16.2	2,101,445	1,411,043	△ 287,264	△ 13.7
		(2)未収金	1,427,760	12.7	1,183,758	1,308,315	244,002	20.6
		(3)貸倒引当金	△ 5,323	0.0	△ 4,918	△ 5,085	△ 405	△ 8.2
		(4)貯蔵品	35,122	0.3	32,220	29,484	2,902	9.0
		(5)前払金	2,724	0.0	346	192	2,378	687.3
	資 産 合 計		11,228,454	100.0	11,612,746	11,454,558	△ 384,292	△ 3.3

ア 固定資産

固定資産は7,953,990千円で、前年度に比べ345,905千円(△4.2%)減少している。
これは主に、建物、器械及び備品が減少したことによるものである。

イ 流動資産

流動資産は3,274,464千円で、前年度に比べ38,387千円(△1.2%)減少している。
これは主に、未収金が増加したものの、現金及び預金が減少したことによるものである。
また、貯蔵品の状況について、たな卸検査を実施したところ、適正に管理されていた。

有形固定資産明細書

(単位：千円)

資産の種類	年度当初 現在高	当年度 増加額	当年度 減少額	年度末 現在高	減価償却累計額			年度末 償却未済高
					当年度 増加額	当年度 減少額	累計	
土地	1,114,298	0	0	1,114,298	0	0	0	1,114,298
建物	17,994,427	50,670	0	18,045,097	270,513	0	12,357,399	5,687,698
構築物	484,361	0	0	484,361	0	0	460,143	24,218
器械及び備品	5,700,185	259,645	159,270	5,800,560	371,226	151,307	4,678,105	1,122,455
車両	11,138	0	0	11,138	0	0	10,581	557
建設仮勘定	7,000	450	7,000	450	0	0	0	450
合 計	25,311,409	310,765	166,270	25,455,904	641,739	151,307	17,506,228	7,949,676

未収金の状況

(単位：千円)

区 分	令和4年度末現在高			令和3年度末現在高 B	増減 A-B
	過年度分	令和4年度分	計 A		
医業未収金	40,438 (0)	939,833 (14,336)	980,271 (14,336)	976,468 (13,714)	3,803 (622)
医業外未収金	0	447,489	447,489	207,290	240,199
合 計	40,438	1,387,322	1,427,760	1,183,758	244,002

(注) 1 令和4年度分医業未収金のうち、保険者負担分は2月調定分、3月調定分を含む(調定から2か月後に入金。)

2 () 内は、クレジットカード分

(2) 負債及び資本の部

負債及び資本の内訳は、下表のとおりである。

負債・資本内訳表

(単位：千円・%)

区 分			令和4年度		令和3年度 B	令和2年度	前年度との比較	
			金額 A	構成比			増減C(A-B)	率C/B
貸 借 方	負 債	1 固定負債	5,493,028	48.9	6,325,949	7,228,880	△ 832,921	△ 13.2
		(1)企業債	5,493,028	48.9	6,325,949	7,228,880	△ 832,921	△ 13.2
		(2)引当金	0	0.0	0	0	0	—
		2 流動負債	2,190,819	19.5	2,133,666	2,400,299	57,153	2.7
		(1)企業債	1,106,420	9.8	1,036,631	1,035,030	69,789	6.7
		(2)未払金	753,585	6.7	766,172	1,035,089	△ 12,587	△ 1.6
		(3)引当金	301,205	2.7	302,429	300,680	△ 1,224	△ 0.4
		(4)預り金	29,609	0.3	28,434	29,500	1,175	4.1
		3 繰延収益	561,819	5.0	536,170	542,224	25,649	4.8
		(1)長期前受金	1,180,740	10.5	1,098,412	1,058,396	82,328	7.5
		(2)長期前受金収益化累計額	△ 618,921	△ 5.5	△ 562,242	△ 516,172	△ 56,679	△ 10.1
		負 債 合 計	8,245,666	73.4	8,995,785	10,171,403	△ 750,119	△ 8.3
	資 本	4 資本金	11,967,177	106.6	11,907,411	11,818,650	59,766	0.5
		(1)自己資本金	11,967,177	106.6	11,907,411	11,818,650	59,766	0.5
		5 剰余金	△ 8,984,389	△ 80.0	△ 9,290,450	△ 10,535,495	306,061	3.3
		(1)欠損金	△ 8,984,389	△ 80.0	△ 9,290,450	△ 10,535,495	306,061	3.3
		当年度未処理欠損金	△ 8,984,389	△ 80.0	△ 9,290,450	△ 10,535,495	306,061	3.3
		資 本 合 計	2,982,788	26.6	2,616,961	1,283,155	365,827	14.0
	負 債 ・ 資 本 合 計		11,228,454	100.0	11,612,746	11,454,558	△ 384,292	△ 3.3

ア 固定負債

固定負債は5,493,028千円で、前年度に比べ832,921千円（△13.2%）減少している。
これは、企業債が減少したことによるものである。

イ 流動負債

流動負債は2,190,819千円で、前年度に比べ57,153千円（2.7%）増加している。
これは主に、未払金が減少したものの、企業債が増加したことによるものである。

ウ 繰延収益

繰延収益は561,819千円で、前年度に比べ25,649千円（4.8%）増加している。

エ 資本金

資本金は11,967,177千円で、前年度に比べ59,766千円（0.5%）増加している。

オ 剰余金

剰余金は△8,984,389千円で、前年度に比べ306,061千円（3.3%）増加している。
これは、当年度未処理欠損金が減少したことによるものである。

5 他会計補助金等の状況

一般会計からの補助金等については、下表のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分			令和４年度	令和３年度	令和２年度	前年度との比較	
			A	B		増減C(A-B)	率C/B
収益的収入	補助金	救急医療	68,537	68,537	68,537	0	—
		企業債償還利子	80,848	92,732	104,496	△ 11,884	△ 12.8
		結核病床運営費	47,810	38,803	39,744	9,007	23.2
		精神病床運営費	176,083	158,093	184,447	17,990	11.4
		高度医療	429,490	429,629	409,351	△ 139	△ 0.0
		感染症病床運営費	31,882	31,882	31,882	0	—
		医師等研究研修費	8,961	6,215	5,959	2,746	44.2
		共済費追加費用	15,667	18,090	18,522	△ 2,423	△ 13.4
		基礎年金拠出金公的負担経費	0	0	0	0	—
		児童手当	20,950	22,110	20,630	△ 1,160	△ 5.2
		認知症疾患医療センター運営費	1,690	6,899	6,859	△ 5,209	△ 75.5
		病院群輪番制運営費	13,050	13,050	13,050	0	—
		新型コロナウイルス感染症対策事業	7,608	17,624	25,358	△ 10,016	△ 56.8
		電力等価格高騰対策事業	43,813	0	0	43,813	皆増
		計	946,389	903,664	928,835	42,725	4.7
資本的収入	出資金	企業債償還元金	57,266	86,261	95,673	△ 28,995	△ 33.6
		医療機器購入費	88,063	17,367	80,323	70,696	407.1
		施設改良費	0	0	60,630	0	—
		計	145,329	103,628	236,626	41,701	40.2
合 計			1,091,718	1,007,292	1,165,461	84,426	8.4

他会計補助金等は1,091,718千円で、前年度に比べ84,426千円(8.4%)増加している。

このうち収益的収入は946,389千円で、前年度に比べ42,725千円(4.7%)増加し、資本的収入は145,329千円で、前年度に比べ41,701千円(40.2%)増加している。

6 キャッシュ・フロー計算書

(単位：円)

区 分	令和4年度 A	令和3年度 B	増減 A-B
1 営業活動によるキャッシュ・フロー			
当年度純利益	306,060,373	1,245,045,320	△ 938,984,947
減価償却費	641,739,471	632,960,452	8,779,019
引当金の増加額（△減少）	△ 819,000	1,582,000	△ 2,401,000
長期前受金戻入額	△ 56,678,787	△ 46,070,731	△ 10,608,056
固定資産除却損・売却益	7,963,500	2,656,900	5,306,600
受取利息収入（△）	0	0	0
支払利息	122,047,204	139,989,078	△ 17,941,874
未収金の増加（△）・減少額	△ 258,950,633	924,243	△ 259,874,876
未払金の増加・減少（△）額	40,946,987	△ 9,739,981	50,686,968
たな卸資産の増加（△）・減少額	△ 2,901,610	△ 2,734,851	△ 166,759
長期前払消費税	0	0	0
その他の流動資産の増加（△）・減少額	36,923	△ 155,056	191,979
その他の流動負債の増加・減少（△）額	1,174,601	△ 1,065,380	2,239,981
小 計	800,619,029	1,963,391,994	△ 1,162,772,965
利息受取額	0	0	0
利息支払額	△ 122,047,204	△ 139,989,078	17,941,874
営業活動によるキャッシュ・フロー	678,571,825	1,823,402,916	△ 1,144,831,091
2 投資活動によるキャッシュ・フロー			
固定資産取得・建設改良実施額	△ 303,764,995	△ 225,005,631	△ 78,759,364
固定資産取得・建設改良実施に係る補助金等収入	0	28,466,991	△ 28,466,991
固定資産売却収入	0	0	0
一般会計からの繰入金	142,094,000	100,310,900	41,783,100
投資	△ 33,500	102,251	△ 135,751
投資活動に伴う前払金等の債権の増加（△）・減少額	12,533,000	123,633,000	△ 111,100,000
投資活動に伴う未払金等の債務の増加・減少（△）額	△ 53,533,556	△ 259,177,719	205,644,163
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 202,705,051	△ 231,670,208	28,965,157
3 財務活動によるキャッシュ・フロー			
一時借入れによる収入	0	0	0
一時借入れの返済による支出	0	0	0
建設改良等に係る企業債償還による支出	△ 1,036,631,412	△ 1,035,030,224	△ 1,601,188
建設改良等に係る企業債による収入	273,500,000	133,700,000	139,800,000
財務活動に伴う前払金等の債権の増加（△）・減少額	0	0	0
財務活動に伴う未払金等の債務の増加・減少（△）額	0	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 763,131,412	△ 901,330,224	138,198,812
4 資金増加額	△ 287,264,638	690,402,484	△ 977,667,122
5 資金期首残高	2,101,445,524	1,411,043,040	690,402,484
6 資金期末残高	1,814,180,886	2,101,445,524	△ 287,264,638

7 経営分析

分 析 項 目			令和 4年度	令和 3年度	令和 2年度	全国平均 (令和3年度)	算 式
構 成 比 率	固定資産 構成比率	%	70.8	71.5	76.0	68.6	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{固定資産}+\text{流動資産}+\text{繰延資産}} \times 100$
		総資産の固定化の度合いを表すもので、比率の低い方が望ましい。					
	固定負債 構成比率	%	48.9	54.5	63.1	48.7	$\frac{\text{固 定 負 債}}{\text{負債} \cdot \text{資本合計}} \times 100$
		固定負債と総資本との割合を表すもので、比率の低い方が望ましい。					
	自己資本 構成比率	%	31.6	27.2	15.9	38.1	$\frac{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延収益}}{\text{負債} \cdot \text{資本合計}} \times 100$
		総資本のうち自己資本の占める割合を示したもので、比率の高い方が望ましい。					
財 務 比 率	固定比率	%	—	—	—	180.1	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延収益}} \times 100$
		固定資産と自己資本との割合で資本固定化の程度を示すものであり、100%以下であることが望ましい。					
	固定資産対 長期資本比率	%	88.0	87.6	96.2	79.1	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{固定負債}+\text{繰延収益}} \times 100$
		固定資産と長期資本との割合で資本固定化の程度を示すものであり、100%以下であることが望ましい。					
	流動比率	%	149.5	155.3	114.3	237.3	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$
		企業の支払能力を見るもので、この比率が大きいくほど支払能力が高いとされている。					
回 転 率	自己資本 回転率	回 転	—	—	—	1.6	$\left(\frac{\text{医 業 収 益}}{\frac{\text{期首自己資本}+\text{期末自己資本}}{2}} \right)$
		自己資本の働きを観察したもので、数値が大きいくほど資本が効率的に使われていることを示す。					
	流動資産 回転率	回 転	2.3	2.6	3.0	1.9	$\left(\frac{\text{医 業 収 益}}{\frac{\text{期首流動資産}+\text{期末流動資産}}{2}} \right)$
		流動資産の使用利用度を表すもので、数値が高いほど運用形態が良好なことを示す。					
	未収金回転率	回 転	5.8	6.3	5.8	4.7	$\left(\frac{\text{医 業 収 益}}{\frac{\text{期首未収金}+\text{期末未収金}}{2}} \right)$
		未収金の回収度を測定するもので、数値が高ければ未収金の回収速度が良好なことを示す。					
収 益 率	総収支比率	%	103.3	114.0	106.8	106.6	$\frac{\text{総 収 益}}{\text{総 費 用}} \times 100$
		総収益と総費用との割合で、営業活動の能率を表すものであり、比率の高い方が望ましい。					
	医業収支比率	%	86.5	92.6	86.0	88.0	$\frac{\text{医 業 収 益}}{\text{医 業 費 用}} \times 100$
		医業収益と医業費用との割合で営業活動の能率を表すものであり、この比率が高いほど経営状態が良好なことを示す。					
	総資本利益率	%	2.7	10.8	5.5	4.8	$\left(\frac{\text{当年度経常利益 (損失)}}{\frac{\text{期首総資本}+\text{期末総資本}}{2}} \right) \times 100$
		経常利益と総資本との割合で、企業全体の収益性を表すものであり、比率の高い方が望ましい。					

分 析 項 目			令和 4年度	令和 3年度	令和 2年度	全国平均 (令和3年度)	算 式		
そ の 他	医業収益に対する 職員給与費の割合		%	59.9	56.3	60.0	60.7	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	
			医業収益に対する職員給与費の割合であり、比率が低ければ効率的な運営であることを示す。						
	医業費用に対する 職員給与費の割合		%	51.8	52.2	51.6	49.3	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{医業費用}} \times 100$	
			医業費用に占める職員給与費の割合であり、比率が低ければ効率的な運営であることを示す。						
	病床利用率		%	66.3	67.2	64.4	66.3	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	
				一般病床	71.3	70.3	67.6		67.5
				結核病床	49.8	43.6	28.6		12.4
				精神病床	48.0	60.4	59.0		54.5
				感染症病床	0.0	0.0	4.9		37.2
		ベッドがどれだけ利用されたかを示すものであり、比率が高ければ利用効率が良好なことを示す。							
	1 日平均 患者数	入 院	人	247.4	269.5	258.4	220.0	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{\text{入院診療日数}}$	
		外 来		706.0	729.2	703.1	578.0	$\frac{\text{年間延外来患者数}}{\text{外来診療日数}}$	
		1年間を通じての1日平均患者数であり、数値が高ければ収益面で良好なことを示す。							
	患者1人1日当たり診療収入		円	27,960	27,321	26,410	28,918	$\frac{\text{入院・外来収益}}{\text{年間延入院・外来患者数}}$	
				入 院	58,325	55,792	52,964	53,348	$\frac{\text{入院収益}}{\text{年間延入院患者数}}$
				外 来	11,974	11,453	11,752	14,963	$\frac{\text{外来収益}}{\text{年間延外来患者数}}$
		患者1人1日当たりの平均の診療収入であり、数値が高ければ収益面で良好なことを示す。							
	薬品使用効率	投薬薬品	%	77.9	76.9	74.5	95.1	$\frac{\text{薬品収入(投薬分)}}{\text{投薬用薬品費}} \times 100$	
		注射薬品		80.1	76.9	78.9	95.9	$\frac{\text{薬品収入(注射分)}}{\text{注射用薬品費}} \times 100$	
		薬品費に対する薬品収入の割合を示すものであり、比率の100%を超える部分が利益の大きさを示しており、この比率が高ければ収益面で良好なことを示す。							

- (注) 1 各比率の算出方法及び計算の際に用いた基礎数値は、総務省自治財政局編「令和3年度地方公営企業年鑑」の例による。
2 全国平均は、総務省自治財政局編「令和3年度地方公営企業年鑑」の数値である。
構成比率から収益率までの項目は、経営主体が市である公立病院の数値である。また、その他の項目は、300以上400未満のベッド数を所有する公立病院の数値である。
3 自己資本＝資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益
4 総資本＝負債・資本合計